



# 筑紫女学園大学リポジット

Possibility of picture books in childcare sites  
chapter II \n— The ideal way of approach on the  
extracurricular activities in the university taking  
into consideration about the role of picture books  
and its possibility —

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 北村, 真理, KITAMURA, Mari メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/1105">https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/1105</a>

# 保育現場における絵本の可能性Ⅱ

— 絵本の役割や可能性を視野に入れた養成校での  
講義外活動の取り組みの在り方 —

北 村 真 理

## Possibility of picture books in childcare sites chapter II

— The ideal way of approach on the extracurricular activities in the university  
taking into consideration about the role of picture books and its possibility —

Mari KITAMURA

### 1. はじめに

保育園（保育所）、幼保連携型認定こども園、幼稚園では絵本を活用して保育をすることが求められている。そのことに関して、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育保育要領、幼稚園教育要領においても示されている。保育者は、どの保育においても要領や指針に基づいて保育を立案し実施することが求められている。しかし、保育の中に絵本をどのように取り入れるかは、示さされておらず、保育者それぞれで実施方法は異なっていると考えられる。子ども自らが絵本を読むことや保育者が子どもの前で読み聞かせをすることが一般的だが、絵本を基にしてその他の保育に結び付けることができれば、絵本の保育は充実したものになると考えられる。

北村<sup>1</sup>は、「子どもにとっての絵本は、保育の中でどのような役割を果たすことができるのでしょうか。絵本は、保育全般に渡って大切な役割を担っています。絵本の役割や可能性を子どもの発達に沿って考慮し関わることは、大切であると保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育保育要領、幼稚園教育要領からも感じられます。」と述べている。このことから、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育保育要領、幼稚園教育要領以外からの視点で絵本の役割や可能性とはどのようなものなのかを保育者は保育を実施していく上でおさえおくことも大切である。またそれらを、現場で働く前の保育者の卵である学生にも身に着けさせ、現場へ送り出すことも求められる。

そこで、絵本の保育を充実させるために保育者がやるべきこととして、絵本の役割や可能性とはどのようなものなのかをきちんとおさえること、現場で働く前の保育者の卵である学生にも絵本の役割や可能性を十分に身に着けさせ、現場へ送り出すことができるようにすることを本研究の目的とする。また、本研究では養成校での講義外活動として実施できるように計画を考案することとする。

## 2. 絵本の役割と可能性

絵本の保育を充実させるために保育者がやるべきこととして、絵本の役割や可能性とはどのようなものなのかをきちんとおさえることが重要になってくる。瀧<sup>2</sup>の『保育における絵本の役割』において、「幼い頃に、本当に美しいものや、こころからの感動に出会うことが、子どもたちの表現力の基礎となります。自然などの身近な環境と十分に関わり、身近な大人や友達とその感動を共有する体験が豊かな感性を育みます。幼児期に、絵本や遊びを通して、お友達と想像の世界をたっぷりと楽しむよるこびの時間は、生涯にわたって、子どもたちの想像力と表現力の溢れる泉となるでしょう。」と述べている。

また、浅木<sup>3</sup>は『絵本から学ぶ子どもの文化』において、以下のように絵本の役割や可能性をまとめている。

### 1) 子どもが追体験できる

子どもは、絵本の登場人物に自分を同一化して、ストーリーを聞いています。そのため、おとなが本を読むとき以上に、お話を自分のこととして受け止めているのです。

その結果として、気に入った絵本を何度も「読んでもらいたい」と読み手にせがむことも、よく見られる光景です。

### 2) 感動し、情緒を育てる

「絵本の世界は、総合芸術だ」といわれます。耳に心地よい文章や美しい絵とともに、絵本のストーリーは、子どもたちにすばらしい感動を与えてくれるのです。

### 3) 想像力を豊かにする

日常では出会えない異国やファンタジーの世界を描く絵本は、子どもたちの世界を広げ、未知なる冒険へと想像力を羽ばたかせるきっかけとなります。

反面、幼児が体験したことがある日常生活の場面などへの共感が、子どもの生きていくことへ自信を深めていくことにもつながっていきます。

### 4) 語彙を豊富にする

爆発的に語彙が増加する乳幼児期には、数多くの言語体験をしてほしいものです。しかし、日常生活で使用する言語や会話には限りがあります。

絵本による豊富な言語体験には、確実に、子どもの語彙を増やしていく効果があります。

### 5) 言語感覚を身につける

語彙を増やすだけでなく、言葉の感覚や心の機微は、一度や二度聞いただけでは、その表現が身につくものではありません。絵本の登場人物を通して自己体験をすることで、子どもたちは、言語感覚に対する鋭い感性を磨いていくことができるのです。

### 6) 文字に関心をもつ

乳幼児期は、①絵を読み、②耳で言葉を聞きながら、③物語を楽しむことを、最優先に考えていくべき時期である。

しかし、小学校就学前になると、自然と文字への興味が沸いてきます。文字に関心をもつことは大事なことです。このとき、文字を覚えるための教科書として絵本を使うことは、避けるべきです。なぜならばそれによって、絵本を嫌いになりかねないからです。絵本はあくまでも、「楽しむ本」であることを、忘れたくないものです。

#### 7) 知的好奇心を満たす

幼児期は、自分の知らない世界への尽きない興味や関心がさかんになる時期です。しかし幼児の生活範囲や環境は限られており、日常生活の中に、劇的な変化があるわけではありません。このような時期に絵本を開くことで、日常の延長、もしくは、非日常の体験ができることも、幼児にとって絵本が魅力的な要素のひとつだといえるでしょう。

#### 8) 考える力を育てる

絵本を読み聞かせてもらう過程で、子どもは、絵本の主人公の行動やストーリー展開を予想し、考えていきます。

思考力や倫理観、価値観の育成につながる表現があるのも、絵本の魅力のひとつです。

#### 9) 知識や視野を広げる

知識や常識、視野を広げていくのは、絵本のみならず、読書体験全般から得られる喜びです。新しい考え方や人生の歩み方の方向を照らす可能性もあるでしょう。

#### 10) 人の気持ちを理解し、思いやりの心を育てる

絵本には、さまざまな登場人物が、喜び、笑い、泣き、悩むなどの場面が描かれています。

子どもは絵本と触れ合いながら、自分の経験の有無にかかわらず登場人物の気持ちに寄り添うことで、他者への理解を深めていくのです。

上記のことによって、子どもにとって絵本の存在は重要であると言える。保育者は上記にまとめた絵本の役割と可能性を十分に理解し把握した上で、子どもと関わり、絵本の活動を充実させていくことが求められる。また、現場で働く前の保育者の卵である学生にも絵本の役割や可能性を十分に身に着けさせていかなければならない。では、どのように学生へ身につけさせていけばよいだろうか。大学の講義ではもちろんであるが、講義外でも絵本を取り入れることができる環境が整っているのであれば、上記の絵本の役割と可能性を視野に入れ、保育の取り組みを行えるようにしていくことで、学生にとっても絵本の重要性に触れる機会となり、絵本を活用した保育について考えることができる時間となる。そこで、養成校での講義外活動に視点を置き、絵本を取り入れた活動の計画を立ててみることにする。

### 3. 養成校での講義外活動での絵本を取り入れた活動の計画

絵本の役割や可能性をおさえることによって、子どもにとって絵本の存在は重要であることが明らかとなった。また、北村<sup>1)</sup>は「保育者は、子どものことを常に理解し自らが豊かな感性を持ち一緒に絵本の読み聞かせや活動を楽しみ、絵本の世界を広げてあげることができれば、より一

層子どもたちは絵本の世界に入り込み楽しめるはずです」と述べている。そこで、養成校での講義外活動に視点を置き、絵本を取り入れた活動の計画を立ててみることにする。養成校での講義外活動において、絵本を取り入れた活動を実施できれば、現場で働く前の保育者の卵である学生にも絵本の役割や可能性を十分に身に着けさせることができ、今後の保育現場の絵本の活動は充実していくと考える。

### 3-1 読み聞かせの練習

浅木<sup>3</sup>は『絵本から学ぶ子どもの文化』において、以下の事を述べている。

絵本を読む際の準備として、次にあげる3つの環境を整えることが大切です。

- ① 子どもの発達や遊びに欠かせない、絵本そのものの環境
- ② 絵本を読む、場所の環境
- ③ 保育者などの人的環境

とくに、3番目の「人的環境」には、読み手自身の読み方、選び方が含まれていることも忘れてはいけません。

上記のような環境を整えることについても、学生にきちんと伝え身に付けさせ、絵本の読み聞かせの活動を実施するべきであると考えます。上記の①と②の環境を整えることができれば、③の絵本の読み方について、学生が理解しやすいように以下のことを行うことが大切であると考えます。

- ① 座り方について考えることができるように、床や椅子等を用いて実践させてみる。そこで、子どもへの目線にも意識させたい。
- ② 絵本の持ち方について考えることができるように、様々な位置で読み聞かせを実施させてみる。そこで得られる感覚を大事にしながら場に応じた持ち方の習得に繋げたい。
- ③ 絵本のめくり方について考えることができるように、様々な方向から絵本をめくってみるような実践を行い、めくりやすい・子どもが見やすいめくり方の習得に繋げたい。
- ④ 話し方・声の大きさ・抑揚の付け方について考えることができるように、様々な読み方の実践ができるように一人一冊の絵本で実施をし、それぞれの絵本での話し方・声の大きさ・抑揚の付け方の習得に繋げたい。
- ⑤ いきなり絵本を読み聞かせるのではなく、子どもたちと共に雰囲気をつくった上で実施することの大切さにも触れ、習得に繋げたい

### 3-2 絵本を用いた展開（ふれあいあそび）

絵本『うずらちゃんのかくれんぼ』を取り入れた以下の遊びを紹介し、学生が実践し習得できるように実施する。下記の活動を通して、保育者と子どもが触れ合いながらコミュニケーションを取れるということも伝えたい。

- ① 3-1で述べたことを基に読み聞かせを実施する
- ② うずらちゃんを画用紙やフェルトで作成しておき、様々な場所に隠しておく。保育者のエプロンのポケットに隠したうずらちゃんをまずは探すことができるように、「先生の周りをよくみて、どこにかくれているかな?」と問いかけ、子どもが探すことができるような言葉をかける。
- ③ 予め保育室の様々な場所に隠していることを伝える。「お部屋にも隠れているよ」、「どこに隠れているかな?」と、言葉をかけながら子どもがうずらちゃんを探すことができるようにする。

### 3-3 絵本を用いた展開（運動あそび）

絵本『ねずみくんのチョコッキ』を取り入れた以下の遊びを紹介し、学生が実践し習得できるように実施する。下記の活動を通して、子どもが遊びを通して身体能力が身につくことができるということを伝えたい。

- ① 3-1で述べたことを基に読み聞かせを実施する
- ② カラーポリ袋で頭からかぶるタイプのチョコッキを用意しておく。「よーい、ドン」の合図で1番目の子どもがチョコッキを着てスタートする。
- ③ 1番目の子は、チョコッキを脱いで2番目の子に手渡す。2番目の子が身に着けてスタートし、順番にチョコッキをバトンの代わりにしてリレーを行う。

### 3-4 絵本を用いた展開（製作あそび）

絵本『はなび ドーン』を取り入れた以下の遊びを紹介し、学生が実践し習得できるように実施する。下記の活動を通して、子どもがスタンプ遊びを通して物の形や色に興味や関心を向けることができるということを伝えたい。

- ① 3-1で述べたことを基に読み聞かせを実施する
- ② 絵具で様々なもののスタンプができるように準備しておく（オクラやレンコン、ピーマンなどの野菜を切ったもの、片段ボールを丸めたものやトイレットペーパー芯をへこませたものを輪ゴムでとめたものなど）。
- ③ 画用紙を丸く切っておき、台紙を準備しておく。スタンプを十字形に押し、隙間をうめて放射線状になるように模様をつけることができるように言葉をかける。
- ④ 完成した作品は、絵本を用いた壁面装飾として装飾できるようにし、作品紹介にも繋がるようにする。保護者にも鑑賞してもらえるように、子どもの成長を感じることができる環境をつくる。

### 3-5 絵本を用いた展開（表現あそび）

絵本『かげ』を取り入れた以下の遊びを紹介し、学生が実践し習得できるように実施する。下記の活動を通して、影が自分自身と同じ動きをすることや光の位置によって影が変化することに興味

や関心を向けることができるということを伝えたい。

- ① 3-1で述べたことを基に読み聞かせを実施する
- ② 保育室の電気を消し、カーテンを閉めて暗くする（怖がる子どもも出てくる可能性があるため、少しカーテンから日が差せるようにしておく）。壁（適当な壁がなければ白い布を壁に貼る）の前に子どもが立ち、後ろから保育者が懐中電灯で光を当てて影を壁にうつし出す。
- ③ 子どもは手足を動かすなどして影が動くのを楽しむ。保育者は移動しながら光を当て、光の向きや壁との距離をかえて、影のうつり方に変化をつけていく。

### 3-6 絵本を用いた展開（言葉あそび）

絵本『あっちゃん あがつく たべものあいうえお』を取り入れた以下の遊びを紹介し、学生が実践し習得できるように実施する。下記の活動を通して、お題の文字から始まる言葉がどれだけあげることができるかについて取り上げ、言葉に興味や関心を向けることができるということを伝えたい。

- ① 3-1で述べたことを基に読み聞かせを実施する
- ② 保育者が「あ」から始まる言葉など、テーマの文字を発表する。子どもたちは2チームに分かれて、交互に「あり」「あか」のように言葉をあげていく。
- ③ 同じ言葉を言わないように交互に続け、どちらかが思いつかなくなったら終了となる。あそびに慣れてきたら、最後にその文字で終わる言葉を集めるなど、文字の位置をアレンジしていく。

### 3-7 絵本を用いた展開（自然・季節あそび）

絵本『ガオ』を取り入れた以下の遊びを紹介し、学生が実践し習得できるように実施する。下記の活動を通して、身近な自然に触れることができるようにしたり、自然物を使った遊びをすることで季節の変化に興味や関心を向けることができるということを伝えたい。

- ① 3-1で述べたことを基に読み聞かせを実施する
- ② 散歩で落ち葉や木の実を拾い集める。葉っぱの色づき方、葉っぱや木の実の種類による形の違いなどにも注目できるような言葉かけも行い自然に触れ合えることができるようにする。
- ③ 画用紙に落ち葉や木の実を貼る。貼ってみて何に見えるかを想像させ、ペンやパスなどで表情などを描き加えて完成させる。様々な形や色の落ち葉、細い枝を混ぜたりしながら楽しむ。

### 3-8 絵本を用いた展開（ごっこあそび）

絵本『ピヨピヨスーパーマーケット』を取り入れた以下の遊びを紹介し、学生が実践し習得できるように実施する。下記の活動を通して、絵本からお店やさんごっこ遊びに展開できるということを伝えたい。

- ① 3-1で述べたことを基に読み聞かせを実施する
- ② お店のテーマを決め、商品を手作りで用意できるようにする。お菓子やさんなら、折り紙や空き箱などを使って、様々な種類のお菓子を作る。
- ③ どのように作ればよいかなど子どもが悩んでいたなら、話し合いができるように保育者も関わり子どもの想いに寄り添うようにする。
- ④ 店員役とお客さん役に分かれて、商品を売ったり買ったりなどの遊びができるようにする。看板やレジ、コスチュームなどのお店用のグッズの他、お客さんが持てるようなカゴも一緒に準備する。

#### 4. おわりに

本研究では、絵本の保育を充実させるために保育者がやるべきこととして、絵本の役割や可能性をきちんとおさえること、現場で働く前の保育者の卵である学生にも絵本の役割や可能性を十分に身に着けさせ、現場へ送り出すことができるようにすることを目的としていた。また、本研究では養成校での講義外活動として実施できるように計画を考案することとするのも本研究で実施したことである。

子どもにとって絵本の存在は重要であることが本研究でも明らかとなった。保育者は、絵本の役割と可能性を十分に理解し把握した上で、子どもと関わり、絵本の活動を充実させていくことが求められる。また、現場で働く前の保育者の卵である学生にも絵本の役割や可能性を十分に身に着けさせていかなければならないということも明らかにすることができた。また、本研究では、絵本の役割と可能性を視野に入れ、養成校での講義外活動に視点を置き、絵本を取り入れた活動の計画を立てることに試みてみた。絵本を取り入れた保育の取り組みを行えるようにしていくことで、学生にとっても絵本の重要性に触れる機会となり、絵本を活用した保育について考えることができる時間となる。養成校での講義外活動において、絵本を取り入れた活動を実施できれば、将来保育現場で働く学生に絵本の役割や可能性を十分に身に着けさせることができ、今後の保育現場の絵本の活動は充実していくと考察できた。

よって、保育者は絵本の役割や可能性をきちんとおさえることは重要である。その上で養成校では、絵本の役割と可能性を視野に入れ、絵本の重要性に触れることができる環境や時間を確保する上でも、講義外活動の場を設けること、そこでの絵本の計画を立てることはとても大切であるといえる。

今後の講義外活動において、絵本の活動をより充実したものにさせるためにも、よりよい計画や運営方法を考案を更にしていかなければならない。講義外活動においての絵本の活動を更によりよい計画や運営を考案することを今後の課題としたい。

#### 引用文献

- 1 北村真理 (2021)「保育現場における絵本の可能性 絵本を基にした保育の展開について」『新しい時



- 代に対応した持続可能な保育・初等教育の在り方』 183-196頁
- 2 瀧薫 (2018) 『保育と絵本』 エイデル研究所 26頁
  - 3 浅木尚実 (2015) 『絵本から学ぶ子どもの文化』 同文書院 73-74頁、142頁

## 参考文献

- 厚生労働省 (2017) 『保育所保育指針』 フレーベル館
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2017) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館
- 文部科学省 (2017) 『幼稚園教育要領』 フレーベル館
- きもとももこ (1994) 『うずらちゃんのかくれんぼ』 福音館書店
- なかえよしを (1974) 『ねずみくんのチョコッキ』 ポプラ社
- ガスコG・ストーン (2012) 『はなび ドーン』 童心社
- スージー・リー (2010) 『かげ』 講談社
- さいとうしのぶ (2001) 『あっちゃん あがつく たべものあいうえお』 リーブル
- 田島征三 (2005) 『ガオ』 福音館書店

(きたむら まり：人間科学科 初等教育・保育専攻 講師)